キリスト教たんぽぽ教会　礼拝宣教ガイド　2020/6/28

「旅路を適時に導く神」
（民数記9章15節～23節）

牧師：原　雅幸

序）荒野の旅と私たち～民数記を読む～
・エジプトを出て、約束の地へと向かう旅は、今の私たちの人生の比喩。
・荒野の旅は、造り変えられる（罪に戻ろうとする性質が滅びる）旅
・「幕屋が設営された日」＝信仰が与えられ、洗礼によって教会共同体に結び合わされた日に当たる。雲の柱・火の柱は「聖霊」の比喩である。

1）旅路にあって変わらないもの～神の守り～
・「柱」＝天と地（神と人）をつなぐもの。ここでは「あの雲」と呼ばれる。
・「雲」の役割…暑さを逃れる陰を作る。「火」の役割…夜間に獣から守る。
・「いつもこのようであって」…民が神に背いたときも変わらない。
・荒野の旅路を平安のうちに行く秘訣は、変わらない守りに信頼すること。

2）旅であるゆえに起こること～変化の連続～
・荒野の旅は「旅立ち=テントの杭を抜く」（そして移動）と「宿営＝杭を打つ」の繰り返し。これは力を要し、面倒なことである。

・私たちの人生も、様々な変化（身体の成長・衰え、家族構成、社会の状態 etc.）に合わせて生活の仕方を変えていく必要がある。教会の歩みも同じである。
・旅である以上、旅立ちと宿営＝「変化」は覚悟しておかなくてはいけない。
⇔人間の罪深さは、旅（変化）を嫌う。勝手にゴールを決めて留まろうとする力が働く。引きずられる人生では、不平不満でいっぱいになる。

3）旅の導き手を受け入れること～気づきと信頼～
・すべての人間の歩み、全世界の旅を導いているのは、主である。
・「主の命により」＝「主の口により」…雲の柱が立ち上り移動することの背後に、主の口から息が送られるように見て取った。
・変化の兆し＋主の導き➡次の変化への勇気と覚悟、平安の旅路。
・「神のなさることはすべて時にかなって美しい」と信頼すれば安心できる。
・人間は、上からの視点をもつことはできない。だから主と共に歩む。

結）主のタイミングをつかむために～定点観測～
・「主への務めを守った」（19 節、23 節）
…朝に夕に繰り返される幕屋での礼拝（祈り）を指す。
・杭を打つのも抜くことも、賛美とともにする旅（人生）を一緒に！

キリスト教たんぽぽ教会　こども礼拝ガイド　2020/6/28

名前（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

① あなたは、野外でキャンプをしたことがありますか。
そこで楽しかったことは何ですか。

② 野外のキャンプで困ること、大変なことは何でしょう。もしも、移動しながらのキャンプが一ヶ月間続いたら、どんな気持ちがするでしょう。

③ 神さまといっしょに生きる人生（旅）と、神さまを無視して生きる人生（旅）では、どうちがうと思いますか。
（　　）どっちでも変わらないと思う　　（　　）うれしさが違うと思う
（　　）神さまといっしょなら、タイミングがわかるから勇気が出ると思う
（　　）自分にはわからないことも神さまはわかっているから安心できると思う
（　　）その他＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

④ イスラエルの人たちは、朝と夕方（一日2回）神さまのことを思い、お祈りをしていました。あなたの生活ではどうですか。それをすると、どんなよいことがあるでしょうか。

～教会クイズ（教理問答）～　**みんなで一週間考えてこよう！**

Q011　イエスさまは、どのようなお方ですか。

A011　イエスさまは、□□□の□□であり、
□□□の□□であるお方です。

📖ヒント📖 マタイ 14:22-33、ヨハネ 1:1-14、ヨハネ 8:54-59、ローマ 1:1-4、ピリピ 2:6-11、ヘブル 5:6-10